

池田学校  
「学力向上実行プラン」

○めあてをもち、振り返ることにより、主体的に考える力を育成する授業の実践  
○認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上推進員	委員
---------	----

校長

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○めあてをもち、振り返り(R60)を書くことを通して、主体的に考えることができる児童が増えている。 ●学力の定着や主体的に考える力に個人差がある。	・学習の過程を通して習得した知識や技能を用い、主体的に考えることができる。 ・学習を振り返り、自分の思いや考えを深め、確かな学力を身につけることができる。 ・接続詞を用いた2文で60字の学習の振り返りを書くことができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、アンダーラインや囲みなどを用い、内容を正確に読み取らせる工夫をする。 ・確かな学力の定着のために、振り返り(R60)を継続する。 ・ドリルやプリント学習での反復学習を行う。	・振り返り(R60)の際に例文や接続詞の提示・紹介を行う。	・児童の学習の振り返りアンケートでは、「できた」という回答が8割を超え、めあてに応じた振り返りができていた。 ・児童自身がアンダーラインや囲みなどを用いて、課題解決に向けて学習に取り組めた。	・振り返りを共有する際、全体、グループなど学習形態を工夫したり、タブレット活用したりするなど学級内で共有方法を増やしていく。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○ペアやグループ学習、学級全体と様々な発表の場で友だちにわかりやすく伝えようとする児童が多い。 ●自分の考えをまとめたり、理由を付けて発表したりする度合いに個人差がある。	・自分の思いや考えを場面や目的に応じて、的確な言葉を選んで話したり書いたりできる。 ・自分の考えについて根拠を明らかにして、相手に伝えることができる。	・ホワイトボードやタブレットなどの様々な学習用具を活用し、自分の考えを表現できる場を設定する。 ・ペアやグループ学習を通して、自分の思いや考えを深められる活動を行う。	・ホワイトボードやタブレット端末、思考ツールハンドブックを活用する。 ・朝の時間に「考えるタイム」を月1回程度実施する。	・ホワイトボードやタブレットなどを使用し、自分の考えを友達に伝えることができた。 ・様々な教科で思考ツールを活用し、考えを整理することができていた。	・思考ツールハンドブックを3年生以上は、次年度も継続して使用し、1・2年生は学習の内容や児童の実態に応じて思考ツールの学習を取り入れる。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に対して一生懸命に取り組むことができる児童が多い。 ●学習課題を主体的に捉える力に個人差がある。 ●家庭学習の取り組みに個人差がある。	・各授業や家庭学習の中で、学習課題をもち、その解決に向けて見通しや計画を立て、学習に取り組むことができる。	・めあてと振り返りを意識した授業を心がけ、児童が見通しをもち、意欲的に学習に取り組めるようにする。 ・学習の手順や視点を示した家庭学習のしおりを各家庭に配布し、家庭学習の充実を図る。	・家庭学習のしおりを各学期の始めに学級で確認する。 ・見通しや具体例を示し、学習課題を捉えやすくする。	・家庭学習をほとんどの児童が毎日忘れずに提出できた。 ・家庭学習のしおりを紛失している家庭が見られたので、学期始めに再配布した。	・各学期の始めに家庭学習の手順や視点について指導し、家庭学習への意欲を高める。 ・発達段階に応じて、調べ学習を取り入れ、授業と関連付ける。

令和4年度 学力向上ロードマップ

